

### 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の「社会と調和し生きる力」「社会で求められる即戦力」を育成し、地域から信頼される学校  
 総合的な「学校力」を高めて、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりを実現  
 ⇒○生徒一人ひとりのニーズに応じた、きめ細かい丁寧な指導を実践  
 ○地元保・幼・小・中・大学、企業・施設など関係諸機関と連携を深め、地域の組織・人材を活用して大阪府でもっとも進んだキャリア教育の実践  
 (1) 自己を高める力・・・確かな学力を育み ねばり強さと未来に希望を持つ志の育成  
 (2) 人とつながる力・・・人とつながる喜びを知り 周囲と協力し合う力の育成  
 (3) 社会に貢献する力・・・地域・社会に貢献しようとする意欲と実行力の育成

2 中期的目標

**1 学習活動の充実**  
 (1) エンパワメントスクールの特徴を踏まえ、「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」に向けて、全教員が授業力向上に取り組む。  
 (2) エンパワメントスクール（総合学科）として、選択科目およびエンパワメントタイムの学習内容の充実と、新学習指導要領における教育活動の充実に図る。  
 \* 生徒学校教育自己診断における「授業わかりやすく楽しい」肯定的評価（授業満足度）を令和5年度には75%以上とする。  
 (H30 ; 60.2%、R1 ; 59.3%、R2 ; 74.7%)

**2 人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導と魅力ある学校づくり**  
 (1) 生徒一人ひとりを大切にす生徒指導を通じて、生徒の規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立を図り、中途退学を防止する。  
 \* 中途退学率を令和5年度には5%以下とする。(H30 ; 6.1%、R1 ; 6.2%、R2 ; 4.1%)  
 (2) 生徒が安心して学校生活を送れるよう、保護者との連携を強め、担任・学年団、生徒指導部、教育相談等が連帯して、組織的に面談、家庭訪問をはじめ日々の連絡強化に努める。  
 (3) 各中学校との連携を密にし、中学時の状況を把握し、個々の生徒指導に活かす。  
 (4) スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、キャリア教育コーディネーター（CC）との連携を強め、教育相談体制を充実させるとともに、支援が必要な生徒の状況を共有し、随時、ケース会議及び拡大教育相談委員会を開くなど、積極的計画的に生徒支援や進路支援をしていく。  
 \* 生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価を令和5年度には75%以上とする。(H30 ; 63.2%、R1 ; 64.8%、R2 ; 74.0%)  
 (5) 生徒会活動や特別活動、学校行事を通じて仲間づくりや生徒の自己有用感を高め、学校・学年・学級への帰属意識を醸成する。  
 (6) 人権教育を推進するために、教職員が校内校外の研修に参加し、さまざまな人権教育の理念を学び共通理解を深め、すべての教育活動の中に人権教育を位置づけ、教育実践への反映に努める。  
 (7) 外国にルーツを持つ生徒が多数在籍する学校として、学習の保障と進路保障に向けての支援を行うとともに、多文化理解教育を推進し、「ともに学ぶ」学校づくりを進める。  
 \* 生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価を令和5年度も80%以上を維持する。  
 (H30 ; 58.4%、R1 ; 68.8%、R2 ; 87.9%)

**3 キャリア教育・進路指導の充実**  
 (1) 自己肯定感や勤労観・職業観を育むことができるよう、系統的・継続的なキャリア教育・進路指導を実践し、「学ぶこと、働くこと、自分らしく生きることの大切さ」を理解し、将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけを積極的に進める。  
 (2) インターンシップやデュアル実習を通して地域を中心とした事業所・施設・教育機関等との連携を強化し、ともに次の世代を育てることにつながり合い、学び合い、助け合いながら組織としてキャリア教育を中心とした教育活動をすすめて、社会で活躍する意欲や態度を育成する。  
 \* 進路決定率を令和5年度には85%以上とする。(H30 ; 83.2%、R1 ; 82.9%、R2 ; 85.2%)  
 \* 生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方」肯定的評価を令和5年度も85%以上を維持する。(H30 ; 76.3%、R1 ; 75.7%、R2 ; 87.5%)

**4 エンパワメントスクールの教育活動の充実と積極的な情報発信**  
 (1) エンパワメントスクールとして教育活動を充実させるように、教職員が一丸となって取り組む。  
 \* 生徒学校教育自己診断における「学校に行くのが楽しい」肯定的評価（学校生活満足度）を令和5年度には75%以上とする。  
 (H30 ; 63.1%、R1 ; 65.4%、R2 ; 74.6)  
 \* 生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価（エンパワメントスクール満足度）を令和5年度も85%以上を維持する。(R1 ; 72.7%、R2 ; 86.4%)  
 (2) 学び直しやデュアルシステムや人権教育をはじめとした学校のさまざまな教育内容や魅力等を、保護者、中学校、地域、府民に向けて積極的に情報発信し、学校イメージの向上を図る。

**5 教職員の働き方改革を進める**  
 (1) ノークラブデー・全庁一斉休日・夏冬の学校休業日の実施を徹底する。  
 (2) 業務の精選を行い、効率的な学校運営に努め、超過勤務時間の縮減を図る。  
 \* 時間外勤務の年間平均時間を令和5年度には320時間以下とする。(R1 ; 420時間5分、R2 ; 325時間47分)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
<p>1 学習活動の充実</p>	<p>(1) 生徒が集中して学習に取り組める学習環境の整備と、生徒が「わかった」「楽しい」と思う授業展開</p> <p>(2) エンパワメントタイムにおける授業内容の充実</p> <p>(3) 主体的、対話的、深い学びを成立させる教職員の授業力の向上</p>	<p>(1) ア 授業規律を徹底指導し、生徒が集中し落ち着いて取り組める授業環境を作る。 イ モジュール授業や習熟度別授業を中心に、授業の楽しさを体験させ、基礎基本の学力を身につけさせる。</p> <p>(2) ア エンパワメントタイムをはじめとした参加体験型(主体的、対話的、深い学び)授業を充実させる。 イ 1年生のインターンシップと2・3年生のデュアル実習を中心としたエンパワメントタイムにおけるスムーズな授業を遂行する。 ウ 外部や地域の教育力を活かした授業展開を積極的に実施する。</p> <p>(3) ア 授業公開週間を設定し、授業の工夫や授業方法・指導方法について、教職員が互いに学び合う場をつくる。 イ 観点別評価の導入にともない、授業公開や研究協議を含む教員の資質向上に向けた研修を行う。</p>	<p>(1) ア ・授業中における懲戒生徒数 10人以下継続 [6人] イ ・生徒学校教育自己診断「30分授業は苦手な分野の学び直しに役立っている」肯定的評価 85%以上継続 [87.7%] ・生徒学校教育自己診断における「授業はわかりやすく楽しい」肯定的評価(授業満足度) 70%以上継続 [74.7%]</p> <p>(2) アイ ・生徒学校教育自己診断「教え方に工夫している」肯定的評価 80%以上継続 [86.3%] ・インターンシップ出席率の維持 [インターンシップに代わる職場見学 97%] ・デュアル実習出席率の維持 [校内研修含む 97.5%] ウ ・生徒学校教育自己診断「授業や部活動などで、保護者や地域の人と関わる機会がある」肯定的評価を維持 [42.0%]</p> <p>(3) アイ ・教職員学校教育自己診断「指導方法等についての検討」「授業内容について」「指導方法の工夫・改善」に関する項目の肯定的評価平均のアップ [62.8%] ・観点別評価に係る教員研修(授業公開や研究協議含む)の実施 [0回]</p>	
<p>2 人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導と魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 一人ひとりの生徒をしっかり把握し高校生活に定着させるための生徒指導と外部連携の充実</p> <p>(2) 生徒を受け止める教育相談の機能充実と生徒の居場所となる学校づくり</p>	<p>(1) ア 頭髪指導や服装指導、遅刻指導による規範意識や基本的生活習慣を醸成する。 イ 丁寧な家庭連絡や家庭訪問により保護者との連携を図る。 ウ 中高連絡会の開催や入学当初の随時迅速な中高連携を実施する。 エ 子ども家庭センターなど外部機関との連携を進め生徒指導を充実させる。</p> <p>(2) ア 要配慮生徒や課題を抱える生徒の状況把握と情報共有に努め、教育相談や生徒支援体制を充実させるとともに、スクールカウンセラー(SC)及びスクールソーシャルワーカー(SSW)との連携を強化し、生徒支援を充実させる。 イ 生徒会や実行委員会中心の生徒が自主的に参加できる学校行事へと見直し、工夫、改善を行い、内容の充実を図るとともに、部活動や生徒会行事の活動を活発化させる。</p>	<p>(1) アイウエ ・懲戒生徒人数の減少 [37人] ・長期欠席者数の減少 [45人] ・中途退学者率 5%以下 [4.1%] ・欠席延人数の維持 [4774] ・遅刻延人数の維持 [4856]</p> <p>(2) ア ・生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価 70%以上継続 [74.0%] ・教職員学校教育自己診断「教育相談体制が整備している」肯定的評価 90%以上継続 [91.1%] イ ・教職員学校教育自己診断「学校行事の工夫・改善」の肯定的評価 60%以上 [55.4%] ・部活動加入率 40%以上 [39%] ・体育祭、文化祭の生徒の出席率 95%以上継続 [体育祭 96.3%・文化祭中止]</p>	

	(3) 人権教育の推進	(3) ア SNS 上やコロナに係る誹謗中傷を含めた生徒対象の人権学習を系統的、計画的に実施する。  イ 人権教育やカウンセリングマインドによる生徒指導、支援教育をテーマとした教職員研修を実施する。  ウ 中国等帰国生徒及び外国人生徒のアイデンティティを大切にしつつ、他の生徒との交流を進め、ともに学ぶ多文化理解教育を推進する。	(3) ア ・生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価 80%以上継続 [87.9%]  イ ・教職員研修年間3回以上 [3回]  ウ ・生徒学校教育自己診断「渡日生の交流や多文化理解の機会が多い」肯定的評価 50%以上 [48.1%]	
3 キャリア教育・進路指導の充実	(1) 三年間を見通した体系的なキャリア教育の取組み  (2) 地域等との連携強化	(1) ア キャリア教育の充実のために、職業適性検査、インターンシップ、進路説明会、社会人講話や、企業・専門学校・大学など見学や体験の機会を設け、生徒個々人の進路設計への意識を高める。  イ 進路講演等を通じて、進路決定及び定着に向けた取組みを継続する。  (2) ア 地域と連携した継続可能な本校のデュアルシステムを追求していくために、デュアルシステムでの連携企業・施設等との連携をする。  イ 地域の外部機関(東大阪市や中小企業家同友会や商工会議所等)や小・中・大との連携を強化する。	(1) アイ ・進路未定率 20%以下 [14.8%] ・学校斡旋就職内定率 80%以上 [88.2%] ・生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える」肯定的評価 85%以上継続 [87.5%] (2) ア ・デュアルシステム意見交換会の開催 [1回] ・デュアル地域協働本部の開催年間3回以上 [1回]  イ ・教員による地域の外部機関のイベント、会合への参加 [1回]	
4 エンパワメントスクールの教育活動充実と積極的な情報発信	(1) 教育活動の充実  (2) 積極的な情報発信	(1) ア HR 活動、学年行事や課外活動を、生徒が主体的に活躍できる場を多くし、エンパワメントスクールの教育活動を充実させる。  イ 地域とのつながりを発展させ、教育活動における地域とのかかわりを深める。  (2) ア 中学校及び中学生、保護者向けにエンパワメントスクールの教育内容と魅力について発信する。  イ 本校の活動状況を、ホームページ (HP) を活用して校内外に発信する。  ウ PTA・同窓会との連携を充実するとともに、学校行事への参加や PTA 活動への参加を呼び掛け、活性化させる。	(1) ア ・生徒学校教育自己診断における「学校に行くのが楽しい」肯定的評価 (学校生活満足度) 70%以上継続 [74.5%] ・生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価 (エンパワメントスクール満足度) 85%以上継続 [86.4%]  イ ・生徒学校教育自己診断における「保護者や地域の人とかわる機会がある」肯定的評価 45%以上 [42.0%]  (2) ア ・広報を目的とした中学校訪問延件数のアップ [95校] ・学校説明会参加者総数 500人以上 [428人]  イ ・HP のブログ更新回数の増加 [40回]  ウ ・保護者学校教育自己診断における「授業参観や学校行事に参加」肯定的評価 45%以上 [42.2%]	

5 教職員の働き方改革を進める	(1) 教職員の働き方改革	(1) ア 全庁一斉退庁日・夏冬の学校休業日の実施の徹底等、働き方改革を常に教職員に意識をさせ、仕事の効率化を図る。  イ 時間外勤務の多い人の状況把握や声掛けをし、時間外勤務の平均時間の減少を図る。	(1) アイ ・時間外勤務の年間平均時間 350時間以下[325時間47分] ・月80時間超過者の延べ人数 の減少[16人]	
--------------------	------------------	---	---	--